

(様式1-2) 新規評価シート

事業名		農村地域防災減災		路河川名等	-					
事業毎の通番		1	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	弁天池(べんてんいけ)				
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-2 ① 災害に強い県づくりの推進			SDGsの関連目標					
	関連する計画や重点施策	長野県食と農業農村振興計画 長野県農業農村整備計画 長野県強靱化計画			関連する事業プロジェクト	-				
	現状と課題	ため池は、長野市東北部の山麓に位置し、水田及び樹園地10.0haをかんがいている。 築造は江戸時代以前であり、堤体は、堤高6.3m、堤長129mの均一型である。堤体下流側には、樹園地や住宅地が接している。 築造されて以降、大規模な改修は行われていない。								
	事業目的	ため池の安全性を向上し、農業経営の安定及び地域住民の生命や財産の確保を図る。								
事業概要	着手年度	2025年度(令和7年度)		事業期間	3年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完了年度(予定)	2027年度(令和9年度)					国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容	押さえ盛土工 L=26m 取水施設工 N=1箇所 洪水吐工 N=1箇所			150,000	82,500	16,500	45,000	6,000	
	平面図						洪水吐の状況 			
堤体写真						取水施設の状況 				
標準横断面図										
事業効果	主な受益対象	受益10.0ha 防災受益54.5ha								
	期待される効果	地域住民の生命や財産の保全 農業生産の維持 低水位管理による流域治水				費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用	2.6			
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	地域計画(人・農地プラン)により地域農業の将来像を確認								
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	H26 地元からため池について相談有り R4.3 地元にはザードマップ配布 R4,R5 堤体の下流に水が溜まり、地元から改修要望があった								
	事業説明等の経緯	R1豪雨耐性評価実施 堤体余裕高が確保されておらず、豪雨時の安全性が確保されていない R4地震耐性評価実施 堤体下流の地震時の安全性が確保されていない								
評価結果	所管課の意見	本地区は、豪雨・地震の耐性が不足しており、決壊した場合、県道長野荒瀬原線やJR北しなの線等への重大な被害が想定されるため、農村集落の生活基盤の保全に向け、早期の事業着手が妥当と判断する。						妥当性評価※	優先度評価※	
	コンプライアンス・行政経営課の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						○	4.4	
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-		評価の決定	事業着手			

※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいほど優先度が高い)